第１学年　社会科（歴史分野）学習指導案

指導者　光市立島田中学校　河本　政之

１　題材名　　武士勢力の台頭〈本時４／１２〉

２　主　眼　　源頼朝の行った土地政策に関する事象を追究する活動を通して、御恩と奉公によって支えられた武士社会の形成・台頭の様子について理解することができる。

３　準　備　　意見表示シート　院政に関する構造図　北条政子の言葉

４　学習過程

学習内容・教師の働きかけ	予想される生徒の反応	教師のてだて・支援・評価
１学習対象の背景考察 栄華を誇る平氏 ←→ 戦いに敗れ失墜する源氏 「平氏と源氏のどちらに味方するか」	１意見の表出 （平氏に味方する） ・権力が集中しているから ・たくさんのお金が貰えそうだから ・戦いに勝てそうだから （源氏に味方する） ・源氏のイメージが好きだから	・栄華を誇る平氏の様子と失脚した源氏の様子について説明する。（石橋山の戦いについて簡単に触れる） ・視覚的にも訴えられるように、資料を提示し、当時の平氏と源氏の勢力差を実感させる。 ・既習事項が定着していない生徒を確認する。 ・東国武士の多くが源頼朝に従った事実を告げる。 ・次の発問を投げかけ、学習課題に対する意欲を更に高めさせるとともに、思考のきっかけとさせる。 「平氏にあらずんば人にあらずとはどういうことか」
２学習課題の提示と追究活動 【学習課題の提示】 「東国の武士たちが、平氏ではなく勢力を失い流人となった源頼朝に従ったのはなぜか」　（中心発問１） 【学習形態】 個人学習→小集団学習 【主な学習活動】 ＊中世の日本の社会構造の追究 ・摂関政治や院政と酷似した平氏の政治 ＊関東武士団の価値観の追究 ・実益主義・自信・土地に対するこだわり 【論点の絞り込み】 論点を絞り込み、東国武士が優先したものを考察させる 「東国武士を動かしたのはプライドか利益か」 プライド or 生活　理想 or 現実 形式 or 実益　伝統 or 実益 人望 or 政策 選んだ・選ばざるをえなかった	２意見の表出 【平氏政権の特色に着目】 ・他の人々は関係なく、自分たちだけ裕福な暮らしをしていたから 【源頼朝の人望・政策に着目】 ・東国武士の力を必要とし、かつ、東国武士を大切にしたから 【東国武士の状況や動向に着目】 ・働きに対する正当な報酬を期待し、叶えられると思ったから 【朝廷の地位や権威に着目】 ・朝廷や貴族に変わる新たなリーダーの登場を期待したから 意見の表出 【プライドとする生徒】 ・武士として見下されることは我慢ならない。強い集団を作り上げていくには、建前も必要だから。 【利益（土地）とする生徒】 ・いつの時代も苦しい生活から不満は生まれる。生活の基盤がなければ、武士といえども生活できない	・表出された意見を類型化しながら提示する。 ・当時の状況を主に武士の目から分析させたのち、学習課題を投げかける。 ・はじめは一人で考察させ、生徒の思考を把握する。 ・机間をまわり生徒一人ひとりの活動状況を把握する。 ○客観的な情報に基づかない想像に頼る意見も受け入れ、肯定的に評価する。 ○平氏政権の特色や頼朝の政策、関東武士団の動向、朝廷の権威に関する意見について肯定的に評価する。 ・生徒各自の意見に対して根拠を問う。 ・表出された意見を「形式を重視した」ものと「実益を重視した」ものとに類型化をはかる。 ○歴史的な事象から離れて考察した（実体験や実社会に即したもの）意見を肯定的に評価する。 ・それぞれの意見を支える根拠の中から、共通点と相違点を洗い出す。あるいは、新たな事実を提示して討論を深めさせる。 ・経済や戦いに関する言葉を活用し、言葉としては出さないが「御恩と奉公」の存在に意識を向かわせる。 ・土地争いを重視しなかった源頼家の末路と、承久の乱の際に投げかけられた北条政子の言葉を資料として提示する。（本領安堵という言葉を投げかける）
３中世の特色（中心概念の獲得） 源頼朝の土地政策の狙いを考察させることで、御恩と奉公の関係に迫っていく 「武士にとって本領安堵は何を意味するのか」　（中心発問２） ※武士が主に最も期待していた物は何か ※武士にとって最も大切なものは何か	３意見の表出 ・武士は土地を必要としていたため、土地の所有を保証することで将軍の権威を高めることができると考えた ・土地の所有を保証することで、多くの武士を取り込み、朝廷や天皇にも対抗できると考えた	・平氏への不満ばかりではなく、頼朝の先見性に東国武士たちは可能性を見出していたことに気づかせる。 ・貨幣経済の発達していないこの時代において、土地の所有が認められることで大きな財を成すと同時に、勢力拡大の礎となっていたことを補足する。 ○中世における土地の重要性についておさえる。 ・承久の乱の際やその後の社会形成によって、この成果が如実に表れたことを紹介する。
４中世の特色を大観する （御恩と奉公のシステムについて考える） 「古代の土地制度との違いをまとめてみよう」	４意見の表出 ・富や権力が集中するところが違う ・公地公民の原則が消えている ・御恩と奉公のシステムが中心	○生徒が感じている古代と中世の違いを整理し、各自の時代観を評価するとともに、時代観形成を支援する。 ・本時の学習を終えて浮かび上がった疑問点を把握し、次時の学習につなげていく。

５　評　価　　中世を支える中心概念の存在に気づき、その思想の与える影響について理解することができたか（時代観の形成）